

**平成 1 9 年度**

**建設局予算要求方針**

# - 目 次 -

<b>1</b>	<b>平成 19 年度建設局予算要求総括表</b> . . . . .	<b>1</b>
	【一般会計】	
	【特別会計】	
<b>2</b>	<b>19 年度予算要求にあたっての基本的考え方</b> . . . . .	<b>2</b>
<b>3</b>	<b>予算要求の重点事項</b> . . . . .	<b>2</b>
	(1) 世界に誇れる環境の街さっぽろ	
	(2) その他の重点事業	
<b>4</b>	<b>事務事業の総点検</b> . . . . .	<b>8</b>
	(1) 事務事業の見直し	
	(2) 受益者負担	
	(3) 事業の選択と集中によるもの	

# 1 平成19年度建設局予算要求総括表

## 【一般会計】

(単位：百万円)

区 分	平成 18 年度 予 算 額 (A)	平成 19 年度 要 求 額 (B)	増 減 額 (B) - (A) = (c)	増 減 率 (C / A × 100)
管理部	23,988 (17,140)	24,295 (17,169)	307 (29)	1.3% (0.2%)
うち雪対策室	14,850 (13,139)	14,814 (13,227)	36 (88)	0.2% (0.7%)
土木部	31,630 (7,373)	30,235 (7,207)	1,395 (166)	4.4% (2.3%)
下水道河川部	3,328 (1,250)	3,239 (1,212)	89 (38)	2.7% (3.0%)
合 計	58,946 (25,763)	57,769 (25,588)	1,177 (175)	2.0% (0.7%)

( )内は一般財源額

本表は百万円単位のため、増減額及び増減率が一致しない場合がある。

## 【特別会計】

(単位：百万円)

区 分	平成 18 年度 予 算 額 A	平成 19 年度 要 求 額 B	増 減 額 B - A	増減率 (B - A) / A
駐車場会計 (札幌駅北口地下 駐車場)	227	231	4	1.8%

## 2 19年度予算要求にあたっての基本的考え方

札幌市の中期財政見通しにおいて、来年度は155億円程度の財源不足と  
なることが見込まれる厳しい環境の中、平成19年度の建設局予算要求枠に  
ついては大幅なカットが求められています。

一方で、建設局実施プランにおいて掲げている「道路・河川・下水道の整備、  
維持・管理等を通じて、市民の安心・安全で快適な生活を守ること」という使命を  
果たしていかなければなりません。

そこで、建設局としては、次の3点を重点事項と位置づけ、限られた財源の中  
での予算要求を行います。

- 事務事業の抜本的な見直し及び再構築(各事務事業の重要性や必要性を  
十分精査し、優先順位をつけるなど選択を徹底)
- 選択と集中の促進による計画事業の着実な推進
- 収入率の向上・歳入の確保に向けた積極的な取り組みの推進

## 3 予算要求の重点事項

(1) 世界に誇れる環境の街さっぽろ

日常生活や余暇活動など様々な場面でうるおいと安らぎを感じることの  
できるまちづくりを推進するため、良好な水辺環境を保全するとともに、  
河川の水環境整備や水環境の改善に取り組む。また、地域特性に応じた効率  
的・効果的な雪対策を進めるとともに、歩行者と自転車が快適に利用でき

る空間の創出や魅力的で活力のある都心の再生などを実施する。

## 1 水とみどりのうるおいと安らぎのある街の実現

2,023百万円(2,104百万円)

注:( )内は18年度予算額

ア 水と緑のネットワーク事業(下水道河川部) 108百万円

水枯れなど水辺環境の悪化している河川に、せせらぎを取り戻すために導水施設整備等を行う。

イ 多自然川づくり事業(下水道河川部) 1,915百万円  
(うち多自然河川整備事業 206百万円)

自然豊かで親しみのある水辺環境を創出するため、治水事業に併せて、散策路や広場等の親水施設整備、生物の生息環境に配慮した環境整備、治水整備完了河川の再生整備を行う。

## 2 ゆたかな冬の暮らしの実現

1,964百万円(2,353百万円)

注:( )内は18年度予算額

ア 凍結路面对策(管理部) 625百万円  
(うち 歩道の凍結路面对策による歩行環境の改善 75百万円)

冬期道路交通の円滑化と安全性の向上のため、公共施設周辺の歩道の凍結防止剤の散布及び砂箱の設置を行う。

イ パートナーシップ排雪及び市民助成トラック事業等(管理部) 1,339百万円  
(うち地域に密着した雪処理の推進 32百万円)

冬期生活環境の充実を図るため、パートナーシップ<sup>1</sup>による市民・企業・行政のそれぞれが役割を分担し、連携しながら生活道路の排雪を行うとともに、地域で処理する地域密着型の雪処理体制を進める。

<sup>1</sup> パートナーシップ:共同で何かを行うための、対等な協力関係のこと。

### 3 歩いて暮らせるゆたかで快適な街の創造

9,943百万円(10,274百万円)

注:( )内は18年度予算額

ア JR白石駅周辺地区整備費(土木部) 1,510百万円

自由通路、駅前広場の整備などJR白石駅周辺の改善を行う。

イ 歩道バリアフリー<sup>2</sup>化事業・無電柱化事業(土木部) 1,579百万円  
(うち歩道バリアフリー化事業 507百万円)

歩道の段差解消や無電柱化による良好な歩行空間の確保を図るため、歩道バリアフリー化や電線共同溝整備を実施する。

ウ 歩行者と自転車の共存する空間の創出事業費(管理部) 113百万円

歩行者と自転車の共存を図りながら利用できる道路等の公共空間を創出し、市民生活の快適性の向上や都市機能の維持を図るために、以下の事業を実施する。

放置禁止区域内自転車対策業務  
札幌駅周辺の有料駐輪場の管理(指定管理者の導入)  
都心部における路上駐輪場の整備  
自転車等放置禁止区域の拡大

エ 都市型レンタサイクル<sup>3</sup>(管理部) 6百万円

オ 札幌駅前通地下歩行空間整備費(土木部) 2,001百万円

地下鉄「さっぽろ駅」と「大通駅」を連絡する公共地下歩行空間の整備を行う。

カ 創成川通アンダーパス<sup>4</sup>連続化事業費(土木部) 4,734百万円

創成川通の2つのアンダーパスを連続化し、交通の円滑化を図るとともに親水空間を創出する。

<sup>2</sup> バリアフリー:高齢者や障がいのある人などが社会生活をしていくうえで障壁となるものを除去すること。

<sup>3</sup> 都市型レンタサイクル:自宅から駅まで自転車を利用する人と駅から会社や学校まで自転車を利用する人が、2人で自転車を共有することにより、路上放置自転車の削減と駐輪場施設の有効活用を図る事業。

<sup>4</sup> アンダーパス:線路や道路などを地下道の立体交差でくぐる構造のこと。

## (2) その他の重点施策・事業

市民の安全と安心を確保し災害に強いまちづくりを進める。

道路の機能を確保するため、維持補修・清掃、街路灯や標識などの整備・管理などの維持業務を効率的かつ適正に行う。

都市の計画的発展や都市機能の強化を図るため、道路整備や河川整備などの社会基盤の整備を行う。

### 1 道路の適正な管理

29百万円(35百万円)

注:( )内は18年度予算額

本市の管理する市道・道道を対象に、道路の正しい利用についてのPRと不法占用物件の一扫と地域の特色に応じて、その地域ごとの屋外広告物の許可基準等を定める「地区指定制度」を活用し、優れた都市景観の形成と風致の維持を図る。

また、道路交通の障害、冬期間の除雪の障害となっている放置車両の撤去を実施する。

ア 不法占用指導事業費(管理部)	7百万円
イ 屋外広告物指導事業費(管理部)	20百万円
ウ 放置自動車処分委託費(管理部)	2百万円

### 2 歩行者と自転車の共存する空間の創出

119百万円(131百万円)

注:( )内は18年度予算額

近年増加している自転車について、総合的な対策を推進し、歩行者と自転車の共存する道路等の公共空間を創出し、市民生活の快適性の向上や、都市機能の増進を図ります。

ア 歩行者と自転車の共存する空間の創出事業費(管理部)(再掲)	113百万円
イ 都市型レンタサイクル(管理部)(再掲)	6百万円

### 3 道路交通機能の維持

5,736百万円(4,978百万円)

注:( )内は18年度予算額

道路は市民生活と経済活動を支えるための基礎的な都市基盤であり、都市機能を支える重要なライフラインである。

この機能を確保していくため、維持補修・清掃、街路灯等の整備・管理等を業務の効率化を図りながら、効果的で適正な道路交通機能の維持に努める。

ア 道路橋りょう維持費(管理部)	3,727百万円
イ 道路清掃費(管理部)	847百万円
ウ 市設街路灯維持管理費・市設街路灯整備費(管理部)	1,162百万円

### 4 冬期道路交通機能の確保

14,506百万円(14,523百万円)

注:( )内は18年度予算額

平成12年8月に策定した「札幌市雪対策基本計画」に基づいて、「冬期道路交通の円滑化と安全性の向上」、「パートナーシップによる冬期生活環境の充実」、「人と環境にやさしい雪対策の実現」を基本方針とし、より効果的・効率的に除排雪、凍結路面对策などの事業を展開する。

・狭小バス路線の除排雪 ・交差点排雪 ・凍結防止剤散布 ・歩行者用砂箱設置など

ア 除雪費(管理部)	14,506百万円
------------	-----------

### 5 円滑な道路交通の確保

12,281百万円(13,019百万円)

注:( )内は18年度予算額

魅力的で活力ある都市の実現を目指すために、札幌都市圏全体における主要幹線道路のネットワークを強化し、交通公害の防止や経済の活性化を支え、また、公共



交通がより多くの人に利用されるように、安全性・快適性の確保など利便性の向上を図る。

ア	主要幹線道路の整備（土木部）	1,832百万円
イ	公共交通の利便性向上に資する道路整備（土木部）	4,459百万円
ウ	立体交差事業（土木部）	1,958百万円
エ	JR白石駅周辺地区整備費（土木部）(再掲)	1,510百万円
オ	補助幹線道路の整備（土木部）	2,522百万円

## 6 安心・安全な道づくりの推進

7,055百万円（6,685百万円）

注：（ ）内は18年度予算額

高齢者や障がいを持つ方の自立した生活を支援し、誰もが歩きやすいバリアフリー化された歩道空間の創出や、美しい街並み形成のための道路の無電柱化など、快適で安心な道路の整備を図る。また、市民の安全性向上のため、日常生活に密着した生活道路や歩道の整備のほか、特に死傷事故率の高い危険箇所での安全対策等、安心・安全な道づくりを進める。

ア	あんしん歩行エリア整備・事故危険箇所対策（土木部）	767百万円
イ	生活道路整備（土木部）	4,709百万円
ウ	歩道のバリアフリー化（土木部）(再掲)	507百万円
エ	道路の無電柱化（土木部）(再掲)	1,072百万円

## 7 都心の再生

6,735百万円（7,517百万円）

注：（ ）内は18年度予算額

札幌駅前通や創成川通において、歩いて楽しい歩行空間や親水空間を創出することにより、都心に魅力的なにぎわいを創出する。

また、人と環境を重視し、都心を活性化させるために、都心の通過交通を低減させる適正な自動車利用による交通の円滑化、道路空間の再配分による円滑で安全な交通環境の具体化を進める。

ア	札幌駅前通地下歩行空間整備費（土木部）(再掲)	2,001百万円
イ	創成川通アンダーパス連続化事業費（土木部）(再掲)	4,734百万円

## 8 災害に強い街づくりの実現

3,714百万円(4,038百万円)

注:( )内は18年度予算額

道路橋の耐震補強や、情報収集環境の充実・関連機関との情報共有化を推進し、災害・事故等の未然防止や迅速な対応による安全な通行の確保を図る。

また、近年、大都市においては、河川の氾濫により都市機能に重大な影響を及ぼす「都市型水害」が頻発していることから、洪水から市民を守り、安全な社会基盤を確保するため、水害に強いまちづくりを推進する。

ア	既設橋りょうの耐震補強(土木部)	513百万円
イ	ITSの推進(土木部)	153百万円
ウ	河川改修事業(下水道河川部)(多自然川づくりを含む 再掲)	2,127百万円
エ	河川の流域貯留事業(下水道河川部)	287百万円
オ	河川の適正な維持管理(下水道河川部)	634百万円

## 9 良好な水辺環境の創造

191百万円(197百万円)

注:( )内は18年度予算額

水量が減少し水枯れを起こすなど水環境が悪化している河川に、せせらぎを取り戻し、人と自然が調和したまちづくりを進めるため、水辺の魅力を活かしたうるおいと安らぎのある水辺環境を創造する。

ア	水辺環境の再生・創出(下水道河川部)	76百万円
イ	水と緑のネットワーク事業(下水道河川部)(再掲)	108百万円
ウ	市民との協働による川づくり(下水道河川部)	7百万円

## 4 事務事業の見直し等

### (1) 事務事業の見直し

一般事務費の節約や、効率的な執務による時間外勤務手当等の抑制

<見直し額78百万円>

施設の保守レベルや、維持管理業務の契約方法の見直しによる経費節減

<見直し額 2 百万円>

道路の清掃レベル等の見直し

<見直し額 8 百万円>

(2) 受益者負担

道路占用料 (看板類 500 円(m<sup>2</sup>/月) 740 円(m<sup>2</sup>/月)など)

<見直し額 2.6 百万円>

堤防使用料 (類似の土地価格 × 5.50/100 5.75/100)

<見直し額 1 百万円>

なお、見直し額は、平成17年度からの段階的改定における19年度改定内容である。